

神のエコノミーにしたがった宇宙の歴史、
すなわち、人類歴史の内側にある神聖な歴史は、
一人の新しい人を持つという主の心の願いを成就する

聖書：ヨエル 1:4. 3:11. エペソ 1:3-6. 2:15. 4:22-24. ミカ 5:2. 啓 19:7-9

I. この宇宙には、二つの歴史があります。すなわち、人の歴史（人類歴史）と神の歴史（神聖な歴史）です。前者は、外側の殻のようなものであり、後者は、殻の内側の核のようなものです——参照、ヨエル 1:4：

A. 人類歴史の内側にある神聖な歴史は、聖書の中でかなり詳細にわたって啓示されています。神の歴史はわたしたちの歴史です。なぜなら、神はわたしたちと結合されているからです：

1. わたしたちは、過去の永遠における神の歴史が、神が行動して人と結合するための準備であったということを見る必要があります：
 - a. 神聖な歴史は、永遠の神と神のエコノミーをもって開始しました。神のエコノミーによれば、神が願っているのは、ご自身を人の中へと造り込んで人と一になり、人の命、命の供給、すべてとなって、人を彼の表現とすることです——エペソ 3:9-10. 1:10. 創 1:26. 2:9。
 - b. 神はご自身の神聖な三一の中で、永遠において一つの会議を持ち、神の永遠のエコノミーを完成するための、キリストの極めて重要な死に関して決定しました——使徒 2:23。
 - c. 神聖な三一の第二は、永遠から時間の中へとご自身が「出て行く」ことを遂行して、ベツレヘムで生まれてひとりの人と成ることを準備していました——ミカ 5:2。
 - d. 神は世の基が置かれる前から、キリストの中で、天上にある霊のものである祝福をもって、信者たちを祝福してくださいました——エペソ 1:3-6。
2. 人の中にある神の歴史は、肉体と成ることをもって開始しました。そして、人の生活、十字架、復活、昇天という過程をもって継続しました。ホセア書第 11 章 4 節は、これらは人の綱、愛のきずなであると言っています：
 - a. 神聖な歴史、すなわち、人の中での神の行動は、手順を経たキリストという、原型としての神・人をもって継続して、新しい人へと至り、新エルサレムという大いなる神・人において究極的に完成します。すなわち、神の永遠のエコノミーを究極的に完成します。
 - b. キリストは、ご自身の肉体と成ることと人の生活を通して、無限の神を有限な人の中へともたらしめました。またキリストは、三一の神と三部分から成る人とを結合し、ミングリングしました。またキリストは彼の人性において、満ちあふれる神を、彼の豊富な属性の中で、彼のかぐわしい美德を通して表現しました。
 - c. キリストが十字架につけられたことは、身代わりの死、すべてを含む死、すべてを含む法理的な贖いであって、それは旧創造を終結させ、すべての

問題を解決しました（ヨハネ 1:29）。キリストは十字架につけられることにおいて、神によって創造されて罪の中で墮落したすべてのものを贖いました（ヘブル 2:9. コロサイ 1:20）。キリストはご自身の神聖な要素をもって新しい人を創造し（身ごもり）（エペソ 2:15）、そしてご自身の人性の殻の内側からご自身の神聖な命を解き放ちました（ヨハネ 12:24. 19:34. ルカ 12:49-50）。

- d. キリストはご自身の復活において、生まれて神の長子となり（使徒 13:33. ローマ 1:4. 8:29）、命を与える霊と成り（I コリント 15:45 後半）、無数の人々を再生して神の子たちとならせ、そしてキリストのからだの肢体、また一人の新しい人（召会）の構成要素とならせました（I ペテロ 1:3. コロサイ 3:10-11）。
- e. キリストは昇天し、それからその霊として下って来て、三一の神の団体的な表現のために、召会を一人の新しい人として生み出しました——ヨエル 2:28-32. 使徒 2:1-4, 16-21。

B. こういうわけで、召会も一人の新しい人の実際として、神聖な歴史の一部分です。この歴史は、外側の人類歴史の内側にある、神聖な奥義の内在的な歴史です。キリストは神聖な歴史のこの部分の終わりに、ご自身の軍隊としてのご自身の勝利者たちと共に再来して（ヨエル 1:4. 3:11）、反キリストとその軍隊を打ち破ります。

C. この事に続いて、千年王国がやって来ます。最終的に、この王国は新しい天と新しい地における、新エルサレムにおいて究極的に完成します。新エルサレムは、神の歴史の最終的な、究極的に完成した段階となります。

II. わたしたちは、ペテロ（漁をする務め）、パウロ（建造する務め）、ヨハネ（繕う務め）に、一人の新しい人を持つという主の心の願いを見ることができます：

A. 神はペンテコステの日に、ペテロを用いて、多くのユダヤ人信者をもたらしめました（使徒 2:5-11）。さらに、コルネリオは祈りの中でビジョンを受け（10:30）、ペテロも祈りの中でビジョンを受けました（17, 19 節）。これらの事を通して、異邦人を得るという神のご計画と行動（9 節後半-14 節, 27-29 節）は、一人の新しい人が実際的に出現するために遂行されました。

B. パウロがエペソ第 2 章 14 節から 15 節において明らかにしているのは、キリストが新しい人を創造する死を通して、ユダヤ人と異邦人の両者を一人の新しい人へと創造したということです（参照、4:22-24）。パウロが I コリント第 12 章 13 節においてわたしたちに告げているのは、わたしたちがみな「ユダヤ人もギリシャ人も」、一つからだの中へとバプテスマされたということです。パウロがガラテヤ第 3 章 27 節から 28 節においてわたしたちに告げているのは、キリストの中へとバプテスマされた人たちがキリストを着たので、「ユダヤ人もギリシャ人もあり得」ないということです。パウロがコロサイ第 3 章 10 節から 11 節においてわたしたちに告げているのは、新しい人の中にはユダヤ人とギリシャ人に何の余地もないということです。

C. ヨハネがわたしたちに告げているのは、主がご自分の血によって、「あらゆる

部族、言語、民族、国から人々」を買い取ったということです（啓 5:9）。これらの贖われた人たちは、一人の新しい人としての召会を構成しています。ヨハネを通して、わたしたちも、召会が金の燭台であることを見ます（1:11-12）。究極的に、これらの燭台は新エルサレムとなります。わたしたちは燭台において、また新エルサレムにおいて、人々の中に何の違いも見ることができません。

D. これらすべての事が示しているのは、わたしたちが毎日、一つ霊を飲むことによって古い人を脱ぎ捨てて、新しい人を着る必要があるということです（I コリント 12:13）。それは、わたしたちが、実際の日常生活のあらゆる面で、わたしたちの思いの霊の中で新しくされて、主の心の願いを遂行し、実際に一人の新しい人を持つためです（エペソ 4:22-24）。

III. 神聖な歴史には新創造があります。それは新しい人であり、新しい心、新しい霊、新しい命、新しい性質、新しい歴史、新しい終結を持っています——詩歌 11 番。エゼキエル 36:26. II コリント 3:16. マタイ 5:8. テトス 3:5 :

A. 神聖な歴史、すなわち、人の中での神の歴史は、キリストが肉体と成ることから開始し、ご自身の昇天を経て、命を与える霊と成り、それから、再生、聖別、更新、造り変え、同形化、栄光化という神の有機的な救いを通して、彼がわたしたちに内住することをもって継続し、わたしたちを一人の新しい人の完全な実際の中へともたらし、わたしたちをキリストの栄光の花嫁とします——エペソ 4:22-24. ローマ 5:10. 啓 19:7-9。

B. 今わたしたちは自分自身にこの質問をする必要があります。わたしたちは神聖な歴史の中で生きているのでしょうか、それとも単に人類歴史の中で生きているだけでしょうか？ :

1. わたしたちはみな人類歴史の中で生まれましたが、神聖な歴史の中で再び生まれ、再生されました。もし、わたしたちの生活がこの世にあるなら、わたしたちは人類歴史の中で生きています。しかし、もしわたしたちが、一人の新しい人の実際としての召会の中で生きているなら、わたしたちは神聖な歴史の中で生きています。召会生活の中で、神の歴史はわたしたちの歴史です。今や両者、すなわち、神とわたしたちは、一つの歴史、すなわち神聖な歴史を持っています。
2. わたしたちは神聖な歴史の中で、奥義的で神聖な事柄を経験し、享受していることのゆえに、主を賛美します。それはわたしたちの有機的な救いのためであり、また人の住む全地に平和の福音を宣べ伝えることを通して、主に拡大を得ていただくためであり（エペソ 2:14-17. 6:15. 参照、マタイ 24:14）、それによって、わたしたちが実際において一人の新しい人となって、勝利を得た彼の花嫁となるためです。